

June 27, 2018 ルーマニアから、柔道の東京オリンピック強化選手・左側3名と監督、コーチが愛知名港花き地方卸売市場にやってきました。
名古屋生花小売商業協同組合の栗田薫夫副理事長始め2名の講師により、生け花の体験教室が行われました。

Olympic Judo Enhanced Athletes from Romania came to Aichi Meiko Regional Wholesale Flower Market. They challenged IKEBANA with Japanese KENZAN and SUIBAN.



講師ほかと記念撮影 ① With IKEBANA Instructors and others



選手3名とコーチの作品 Masterpieces



講師ほかと記念撮影 ② 日本人監督大石幸平さんも加わって With Japanese Director Kohei Ohishi



2018.6.27 栗田薫夫

約1ヶ月前、この花育の依頼を受けてより、名花協理事・事務局職員を交えてその計画と実施について検討を重ねた。結果、栗田と五幣、事務局から桑原と今回の立案をした水野の4人が、ルーマニア女子柔道オリンピック強化選手たちに、名古屋市港区にある愛知名港花き地方卸売市場2階のオープン会議室で、生け花教室を行うこととなった。水野職員は、ルーマニア柔道強化選手団の日本人監督大石幸平さんと同級生である。

当日15:30に私と五幣が運転する車2台で、あおなみ線ささしまライブ駅近くのJICA中部なごや地球ひろばへ選手たちを迎えに行った。選手3人、コーチ1人(いずれもルーマニア人女性)と大石監督の5人が分乗し、会場である愛知名港花き地方卸売市場へ向かう。到着後、2階のオープン会議室へ花材等を運び入れ、初めての外国人対象の花育となる。

始めに「We love Romania.」とおもてなしの心を表す。彼女たちが英語を解するかどうか全く未知のまま、花に関して知っている限りの英語を並べた。まず、日本の華道とヨーロッパのフラワーアレンジの違いを説明する。当初、華道の生花・投入・盛花の3種の生け方の説明と、それがフラワーアレンジとの違いである空間のとらえ方、枝物を使うこと、特に生花においてはいくつかの「役」によって枝物だけで三日月をつくり、その延長線上に満月を表現していること、大きく言えば花の(枝物の)形を追求することによって、自然の景色さらには宇宙全体をひとつの花の中に表そうとしていることを示した。

ヨーロッパと日本の美意識の違い、それを超えて華道がフラワーデザインを取り入れ(その逆もあり)、花を通じて東西の交流があつてともに発展してきたことを伝えた。これはも

う言葉ではなく花を活けることによってしかできないことであった。

彼女たちには、まず、剣山と水盤を使った盛花を体験していただいた。初めはとまどう様子も見られたが、間もなく慣れた手つきで見事な作品が仕上がった。次いで、同じ花材を、今度は持ち帰り用にコンポートにフラワーアレンジとして作り直してもらった。

練習で疲れている選手たちに「癒し」の効果があったのか。出来上がった花を前に笑顔の彼女たちがその結果を表していた。

色(カラー)に表したおもてなし。次は東京 2020。